



市立三次中央病院 患者支援センターだより

令和4年2月発行



患者支援センターだよりに寄せて



副院長・患者支援センター長

たつ もと なお くに
立 本 直 邦

暦の上では立春を過ぎましたが、まだまだ寒い日が続いております。また、名称変更後早1年を迎えようとしておりますが、皆さまにおかれましては、日頃より市立三次中央病院患者支援センターに多大なるご理解ならびにご協力を賜り改めて心より感謝申し上げます。

さて、現在も、世界中で、日本で、もちろんわれわれの地域においても、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、ワクチン接種が進み、新規抗ウイルス薬等も承認・使用はされ始めましたが、まだまだ終息の見通しが立たない状況です。それどころか、新しい感染能力の強い変異株の出現により、日常生活すらままならない、翻弄される日々が続いています。当院も地域の最前線の病院、県北の最後の砦として、スタッフ一丸となって、診療業務をこなし、日々立ち向かっております。今は、一日も早い終息を祈るばかりです。また、このたびの院内クラスター発生に伴い、患者様はじめ、関連職種の皆さまには多大なるご不便やご迷惑お掛けいたしましたこと、この紙面をかりましてお詫び申し上げます。ただご事情お察しいただき、お許しいただければ幸いです。

相変わらず、患者支援センターの重要性には変わりないと思います。また、皆さまのご意見、ご要望には、引き続き迅速にお応えして参る所存ですので、引き続き患者支援センターをよろしく願いたします。最後に、皆さまのますますのご健勝を心より祈念いたしております。

～1月からの新任医師紹介～

この度、市立三次中央病院に赴任させていただきました、耳鼻咽喉科の松本和太と申します。



耳鼻咽喉科

まつもと かずひろ
松本 和太

広島市出身で、香川大学医学部卒業後、マツダ病院、広島大学病院での勤務を経て、市立三次中央病院で勤務させていただくこととなりました。大学卒業後3年目、耳鼻咽喉科医としては1年目が終わろうとしているところになります。

三次の地に足を踏み入れるのは今回が初めてで雪の多さに戸惑っているところではありますが、気温とは正反対の温かい町の雰囲気にはほっとしている日々です。

若輩者ではございますが、三次の医療に貢献できるように日々努力し、丁寧な診療を心がけていきたいと考えております。温かく見守っていただけましたら幸いです。

院内 Stroke チームの活動について～Time is Brain～

日頃より備北の脳卒中診療にご協力いただき、心より感謝申し上げます。2020年10月に発足した院内 Stroke チームの活動についてご紹介させていただきます。

近年、脳梗塞診療の目まぐるしい進歩によって、以前は重度の麻痺や意識障害を後遺していた重症脳梗塞患者さんを助けることができる時代になりました。2005年に tPA 静注療法、2015年には血栓回収療法の保険適応が認められ、更に血栓回収療法に関しては適応時間の拡大とともに治療数も年々軒並み上昇しています。当院は備北地区唯一の一次脳卒中センターとして24時間365日脳卒中患者さんを受け入れ、治療を行なっています。tPA 静注療法、血栓回収療法を行うことができるのは備北では当院のみであり、担う役割は重大です。

勉強会の風景

脳梗塞には様々な種類がありますが、その中で最も重症化しやすいのは心原性脳塞栓症(=心臓の病気が原因で引き起こされる脳塞栓症)です。心房細動の既往のある方は心臓の拍動リズムが不規則となり、心臓内の血流に淀みができてしまい血が固まってしまいます。そうしてできた血栓が脳に飛んでしまい、大きな血管が詰まってしまいます。脳梗塞により血流が途絶えると、1分間に約190万個の細胞が死滅するといわれています。重症の心原性脳塞栓症の場合、治療が1時間遅れるごとに寝たきりになってしまう確率が25%ずつ上がるとされています。また、1秒治療が遅れると健康寿命が2.2時間短縮してしまうという報告もあります。脳梗塞を疑った場合は「Time is Brain (時は脳なり)」を合言葉とにかく早く治療を始めなければなりません。



しかし、一次脳卒中センターである当院も以前はDoor to Puncture time(来院から治療開始までの時間)に平均107分を要しており、全国目標の60分に遠く及びませんでした。そこで、2020年10月に院内Strokeチームを立ち上げ、院内プロトコルを刷新し、コメディカルスタッフや他科の先生方向けに勉強会を開催しました。そして、ホットラインや来院前問診票など様々なツールを導入し備北救急隊と連携することで、脳卒中が疑わしい患者さんをすぐに直接搬送できるような体制を整えました。意識改革を行った結果、半年後にはDoor to Puncture timeを平均62分まで短縮させることができ、現在もこれを維持できています。血栓回収療法は年間20例を越え、備北の脳卒中診療における中核病院としての役割をようやく全うすることができるようになったと感じています。

一方、tPA療法は4.5時間以内、血栓回収療法は24時間以内(画像所見を含めて総合的に判断)という時間制約があります。当院に赴任して「早く来てくれたら助けることができたかもしれないのに・・・。」と感じたことは多々あります。ご高齢の方も多く、来院しようか迷うケースが多いのだと思います。そこで、地域医療を担う皆さま方にご協力をいただきたいと思います。一次・二次予防に加えて、脳卒中を疑う症状があれば、「Time is Brain」を合言葉に1秒でも早い救急受診、ご紹介をどうぞよろしくお願い申し上げます。

市立三次中央病院 脳神経外科 家護谷 泰仁

